

だんだんテラスの目指すもの

文部科学省 私立大学 戦略的研究基盤形成支援事業
『集合住宅“団地”の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究』

MAY 2015
VOL. 173



だんだんテラスの日常の様子

だんだんテラス開設の背景

平成 25 年 11 月 16 日、U R 男山団地男山中央センター商店街の空き店舗を活用し、住民が気軽に集まれるコミュニティ拠点「だんだんテラス」を開設した。開設当初から、関西大学 団地再編プロジェクト（以下、KSDP）の準研究員（大学院生）が主体となって運営を行っており、現在も日々の運営・常駐は学生が中心となっている。しかし、将来的には男

山地域の住民主体の運営への移行を目標としている。平成 26 年 4 月、任意団体「だんだんテラスの会」を立ち上げた。自治会、商店会、行政（京都府、八幡市）、U R 都市機構、KSDP のメンバーで構成し、地域内のプラットフォームとしての役割も担っている。本稿は、開設から 1 年が経過し、様々な展開をみせるだんだんテラスの活動と目指すものについてまとめたものである。

1. だんだんテラス開設の経緯

関西大学団地再編プロジェクト(以下、KSDP)では、平成24年4月より、京都府八幡市に位置する独立行政法人都市再生機構男山団地(以下、UR男山団地)をフィールドとして、研究活動を行ってきた。同年11月、KSDPによる「既存ストックを活用した男山団地再編技術提案」をもとに展覧会(大阪・京都・東京)を開催し、その後、男山地域の住民らとワークショップを行った。平成25年10月、京都府知事立会いのもと、八幡市、UR都市機構、関西大学は「男山地域まちづくり連携協定」を締結し、最初の取り組みとして、同年11月16日に住民が気軽に集まれるコミュニティ拠点「だんだんテラス」を開設した(図1~5)。

だんだんテラスは、ワークショップ



図1. だんだんテラスの位置



図2. だんだんテラス内部

プやアンケート調査で明らかとなった「地域に気軽に集まれる場所が欲しい」といった住民からの要望と空き店舗が増加傾向にあった男山団地中央センター地区の現状を受けて開設に至った。その名の由来は「団地について談話する」の略に加え、「ゆっくり変わっていく」という「段々」の意味も込められている。

2. だんだんテラスの会の設立

平成26年4月だんだんテラスの運営を行う任意団体「だんだんテラスの会」を立ち上げた。だんだんテラスの会は自治会、商店会、京都府、八幡市、UR都市機構、KSDPのメンバーで構成されており、①住民が気軽に集まれる拠点の運営、②男山地域のまちづくりに関する情報収集、③男山地域のまちづくりに関する情



図3. オープニングポスター

報発信、④男山地域のまちづくりに関する課題解決の4つの事業に基づいて活動に取り組む。

本年度より、活動資金(施設費と学生スタッフの交通費を除く)は、八幡市からの補助金を元に「京都府地域力再生プロジェクト支援事業交付金」を獲得し、自主的な運営を行っている。

定例の運営会議では、学生スタッフによる日々の活動報告、会主催のイベント企画、調整を行っており、平成27年度以降、会の代表を住民に委ね、住民主体の運営への移行を目標に協議を重ねている。

3. 開設から一年が経過して

開設から一年が経過しただんだんテラスには、毎日散歩の途中に立ち寄りの方、毎日差し入れを持って来てくれる方、バスの待ち時間に立ち寄り親子、絵本を読みにくる親子、作業を手伝ってくれる大工さん等、ふらっと立ち寄る常連さんが増えてきている(図6)。日々記録してきた「活動日誌」に利用者の個人名が記録さ



図6. 作業を手伝いにふらっと集まってくる住民

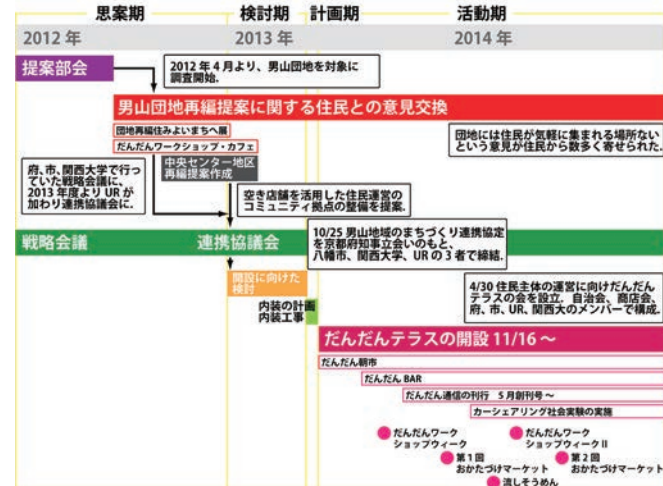


図4. だんだんテラス開設の経緯

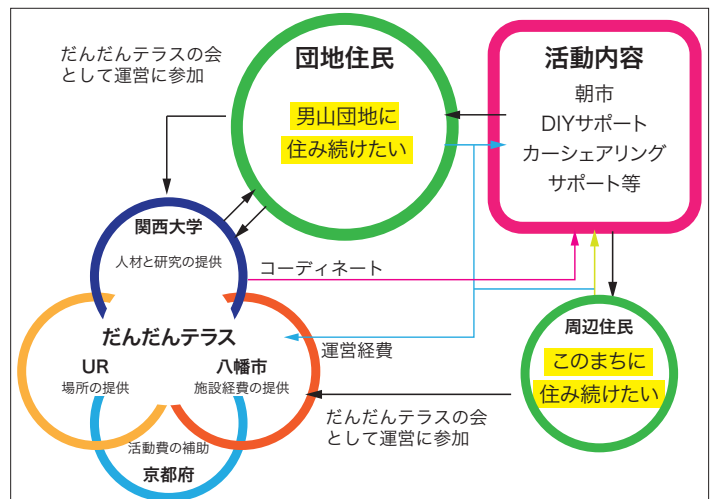


図5. だんだんテラス開設の経緯

れ

るようになってきたことも、顔見知りが増えて来た証であろう。

利用者からは「いつ来ても必ず誰かがいるのが魅力」、「外に出るきっかけになった」という声が寄せられており、だんだんテラスの特徴でもある「365日オープン」の意義が伺える。

当初は、地元農家の野菜を販売する「だんだん朝市」のみであった活動も、今ではいくつもの活動がうまれている。それらの活動は多様であり、多世代、多主体が集まる交流拠点になっている。

(1) 交流の場として

「だんだん朝市」では、週三日（火・木・日曜日）学生スタッフが6軒の地元農家を周り買い付けた、約35品の野菜を販売している。最近では午前中に完売するほど好評である（図7）。

隔週の金曜日はオープン時間を22時まで延長し、普段立ち寄ることができない働く層を対象に「dang dang BAR（だんだんバー）」を開催している（図8）。参加者は、食べ物を持ち寄って、みんなでシェアをしながら会話を楽しんでいる。男山地域外からの参加者もあり、昼間とは異なる雰囲気夜遅くまで賑わっている。



図7. だんだん朝市



図8. dang dang BAR

(2) 住民活動の場として

「オープンな場所だからこそ、地域の方に活動を知ってもらえる」という地域団体が定例会に利用したり、歴史講座を開催したり、ハガキ絵やストレッチ等の教室ごとにも利用されている。その他にも、自らの経験や技術を活かし、ボランティア活動を行いたいという声も多く寄せられている。また、住民からの要望を受け、府・市主催の「消費者生活出前講座」（図9）や「認知症に関する相談会（オレンジカフェ）」も定期開催されている。



図9. 消費者生活出前講座

(3) だんだんテラスの会主催

のイベント

平成26年7月、9月には、住戸内の整理整頓をするきっかけづくりとして「おかたづけマーケット」と題したフリーマーケットを開催した（図10）。



図10. おかたづけマーケット

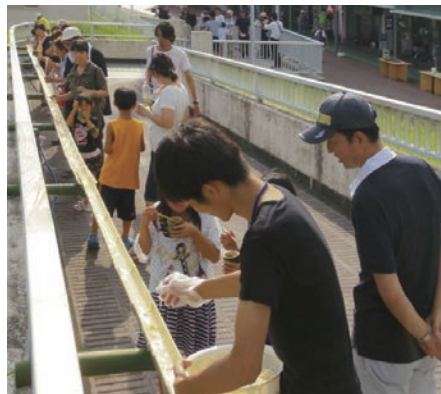


図11. 「流しそうめん」イベント

8月には、地元のNPO法人の協力を得て「流しそうめん」のイベントを開催した（図11）。イベントには、子連れの家族や高齢者の方、関係者を含め計100名を超える参加があり賑わいをみせた。これらのイベントは、団地の広大な屋外空間の活用について考えるきっかけづくりが主旨である。

(4) カーシェアリング社会実験の実施

平成24年にKSDPが行ったアンケート調査「自家用車所有・利用実態調査」「カーシェアリング利用意向調査」の結果を受け、平成26年7月より「カーシェアリング社会実験」を実施している（図12）。タイムズ24株式会社の協力のもと、だんだんテラスのバックヤードに車を配車し、カーシェアリングの利用者に対し、ヒアリング調査を行っている。



図12. カーシェアリング社会実験

(5) ワークショップの開催

だんだんテラスでは、「きっかけ活動づくりのワークショップ」やテーマに沿って一週間連日行う「だんだんワークショップウィーク」に取り組んでいる（図13）。これまでのワークショップでは、ひとが集まるきっかけづくりとして「朝10時のラジオ体操」や自治会がそれぞれの集会所で行っていたサロン活動を出張開催する「出張自治会サロン」などを実施した（図14）。それらは住民の要望により継続しており、新たな活動として定着している。その他にも「待っているのではなく、話を直接聞きに来て欲しい」という要望を受け、「出張だんだんテラス」を企画し、D地区からA地区まで公園や緑道でワークショップを行った（図15）。



図 13. 「だんだんワークショップウィーク」開催告知チラシ



図 14. 朝 10 時のラジオ体操



図 15. 出張だんだんテラス

関連リーフレット：165

『だんだんテラスの目指すもの』

講演：辻村修太郎（地域まちづくりコンサルタント、京都府公共員）
とりまとめ：宮崎篤徳（関西大学 先端科学技術推進機構）

本リーフレットは、文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業「集合住宅「団地」の再編（再生・更新）手法に関する技術開発研究（平成 23 年度～平成 27 年度）」によって作成された。



図 16. だんだん通信

(6) だんだん通信の発行

これらの活動予定や報告等は、「だんだん通信」を通じて情報発信されている（図 16）。「だんだん通信」は、男山団地（賃貸・分譲）全戸に配布され、その制作や配布は学生スタッフがやっている。今後、住民主体の制作を視野にいれ、表紙写真の撮影やコラム執筆等は住民参加を呼びかけている。

4. だんだんテラスの目指すもの

開設後一年が経過しただんだんテラスでは、多様な活動の展開がみられ、今後はそれらの活動を継続させる仕組みが求められている。

それは言わば、気軽に集まれる交流拠点、「場」や「きっかけ」を与える活動拠点、団地の再生・更新を進めて行く上での情報収集・発信拠点を担う地域内プラットフォームの構築である。それに向けて住民・市民、京都府・八幡市、事業主体としてUR都市機構等に加え、専門家・学識経験者が参画し、「だんだんテラスの

目指すもの」について継続的に協議を重ねることが重要である。

平成 26 年 8 月、京都府の新たな制度「公共員」配置の募集に、だんだんテラスの会として応募し、同年 11 月、男山地域に配置されることが決定した（図 17）。「公共員」は、半官半民という立場で、地域のコーディネーターを行う人材であり、将来的には、このような人材が地域から育つことが望まれる。そういった意味でも、だんだんテラスは人材育成の場としての期待も大きい。日常的に学生や地域の子どもたちが一緒になって、団地やまちについて楽しく会話する姿をみると、その展望は明るいように思える。

平成26年度「まちの公共員」の募集について

少子高齢化や人口減少、地球環境の保全、地域産業の衰退など多様な主体との協働により解決することが期待される社会的な課題を有する地域に居住し、又は職業生活活動を持しつつ、仕事をしながらコーディネーター等の役割を果たす方を「まちの公共員」として採用します。

1 採用予定人数、活動地域及び業務内容	
採用予定人数	以下のとおり
採用地域	活動地域及び主たる業務場所
業務内容	業務内容
1名	<ul style="list-style-type: none"> 男山団地内の「だんだんテラス」を、地域住民の主体的な運営を可能とする仕組みづくり 新しい地域活動を生み出すための、まちづくり評議会等の開催 様々な地域コミュニティの豊富なネットワークの構築 地域活性化の起爆剤となるコミュニティビジネスの仕組みづくり 積極的な情報発信による、地域課題に対する共通認識の醸成

図 17. 「まちの公共員」の活動・業務内容等（京都府 HP より引用）

発行：2015 年 5 月

関西大学
先端科学技術推進機構 地域再生センター
〒564-8680 大阪府吹田市山手町 3 丁目 3 番 35 号
先端科学技術推進機構 4F 団地再編プロジェクト室
Tel : 06-6368-1111 (内線 : 6720)
URL : http://ksdj.pjimm.com/